

# 令和8年度武蔵村山市立学校 学校経営方針

武蔵村山市立小中一貫校村山学園 統括校長 飯星 健司

## 教育目標

9年間の義務教育における系統的・継続的かつ主体的な学びを通して、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」である「人間力」（知的能力、対人関係力、自己制御力）を身に付けた児童・生徒を育成する。

「人にやさしく、自分に強く、英知を磨く 村山の子」

## 1 目指す特色ある学校像

- (1)義務教育9年間での系統的・継続的な指導を通して、「人間力」の育成を図る学校
- (2)施設一体型の特色を生かし、「目指す児童・生徒像」の具現化に向け、小・中学校教員の「指導観の一貫」を目指す学校
- (3)地域・家庭との協働により、コミュニティ・スクールとして信頼される学校

## 2 目指す児童・生徒像

- (1)自ら学ぶことができ、基礎的・基本的な学力が身に付いている子
- (2)自分で考えることができる子
- (3)自分で判断することができる子

## 3 経営の具体策

- (1)人権尊重教育に基づき、児童・生徒のいじめ防止を図る。
- (2)生命を尊重する心を育む道德教育の推進を図る。
- (3)「基礎的・基本的な学力の確実な定着と向上」を最重要課題とする。以下を徹底する。  
①授業の流れを定型化する。②国語・算数（数学）の宿題を毎日出す。③読む・書く・計算の技能を高める。④読書をする。⑤新出漢字を確実に習得させる。⑥国語辞典を活用する力を付ける。⑦掛け算九九を確実に定着させる。⑧模範授業や研修受など、教員の指導力を高める。⑨家庭学習の充実を図る（小：学年×10分、中：学年×1時間）。
- (4)心身の健康推進を図る。体力テストの結果も活用し、体力向上を図る。
- (5)国際理解教育は、グローバル化に対応でき、国際社会で活躍できる人材としての素養を養う。日本語学級に通級する児童の日本語教育を推進する。
- (6)特別な教育支援や発達支援が必要な児童・生徒に「個に応じた」連続性のある適切な指導と必要な支援を行う。校内委員会を中心に組織全体で支援する。「知的障害固定学級」では授業改善を図る。「自閉症・情緒障害固定学級」では特に自立活動の指導に重点をおく。
- (7)安全・安心を基盤とした組織的な生活指導の推進と危機管理の徹底を図る。初期対応と報告・連絡・相談・確認を徹底し、課題は全教職員で共有する。
- (8)GIGAスクールによる一人1台端末や各種ICT機器及びデジタル教科書、デジタル教材の有効活用を図り、教育DXに取り組む。タブレット端末を活用し、児童・生徒一人一人に合った個別最適な学びを進める。①1年生からローマ字タイピングを習得させる。②生成AIやSNSの正しい扱いや使い方を含む情報モラル教育を強化し、「してはいけないことを実行しない姿勢」を育てる。
- (9)意図的・計画的なOJTにより若手教員の育成、組織の教育力向上を図る。
- (10)業務の精選・効率化を通して働き方改革を進め、教職員の意識改革に取り組む。

## 4 まちづくり学習の推進に向けた方策

まちづくり学習を通して武蔵村山市の魅力に気付かせ、地域参画の態度を育成する。地域資源や外部人材を計画的に活用し、学びを充実させる。

- (1)小学部 地域の人々や施設との関わりを深め、地域を大切に作る心を育てる。
- (2)中学部 他地域の調査を踏まえて本市の特色を理解し、市民として地域に貢献しようとする態度を育てる。

## 5 小中一貫教育推進に向けた方策

小中9年間の中で、小中連携や異学年交流による様々な学校行事や体験学習等を通して志をもたせる。併せて、9年間でのキャリア教育の推進を図る。